

1, 法人の教育目標

「明るく 正しい 賢い子」を建学の精神とし、「遊びの中・生活の中での言語」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

本法人では目指す幼児像を体現するため次の5項目を活用する

1, 心の教育 2, 音感教育 3, 自然教育 4, 言語教育 5, 体育遊び

2, 法人の運営する学校及び施設

- 1, 木津幼稚園（幼保連携型認定こども園）
- 2, 公私連携幼保連携型認定こども園学園台こども園（幼保連携型認定こども園）
- 3, 子育て支援センター「smile」（地域子育て支援拠点事業）
- 4, 小規模保育園リトルディッパーナーサリー（小規模保育園A型）

3, 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

乳幼児教育の強化

衛生安全管理の強化

保育教諭要員の強化補充

4, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程を幼稚園教育要領や保育所保育指針を踏まえ、園の教育理念教育方針に従い編成している	幼児期の教育を実践すべく遊びの中の学びや生活の中の学びに注力する。国際的観点からも日本の幼児教育で行われる環境を通じた教育が見直される中、当法人もより強固に行いながら安全管理をさらに進めることとなる。
教育要領、教育課程を子どもの実態などをもとに考えて作成しているか	子供が負担を感じることなく無意識のうちに向上できる手法として漢字・英語その他アクティブラーニングを行っている
乳幼児教育の強化	LDに乳児保育リーダーを置き3園での学びあいや意見交換を行う。1つでも共通言語が増えるということはスムーズなコミュニケーションにつながり子どもたちの保育向上につながる。また、オンライン研修や園外研修等を積極的に受講した。
職員の評価制度を見直しより良いものにする	個人評価表を見直し、オンライン回答をできるようになり、管理を一元化した。分析や変遷なども追うことができるようになったが操作が煩雑ですべてに取り掛かれていない
教職員の募集	新型コロナウイルスが5類へ移行したことにより多くの職員が結

	婚・出産を選択するようになった。しかしこの人材不足の時期と重なり、「産休代替え」や「育休代替」など短期間で仕事をする選択肢は全くなく、正規職員やパート職員の応募もごく少なかった。今後安心して子育てできるよう余裕人員の確保も課題になる
遊びを通して工夫したり協力する姿が見られる	子どもたちの遊びに制限がなくなってきたが、マスク生活や3密を避ける生活を小さいうちに行っていたので免疫力や抵抗力が少なくなった傾向がみられる。外遊びや他者と触れ合う遊びやクラス外の子と触れ合う必要がある。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	かほく市内歯科医師会の推薦でフッ化物洗口の薬剤を提供してもらう。年長のみだが半年行った結果、虫歯が減ったのではないかとの評価を頂く。また洗口の習慣もついて良かった。
園の財務状況を積極的に公開する	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。令和5年度会計は赤字の予想であったが、期末には取り戻すことが出来た。職員のチームワークと努力の賜物である。
防犯管理	R6/1/1 能登沖地震があり、東日本大震災以降職員や保護者の防災意識が高いことが実感できた。確認しあい、助け合う気持ちが素晴らしい。園舎の被害は最小限ではあったが学園台こども園の修繕見積もりはおよそ100万円かほく市よりの賃借物件であるので全額補償されたい。(未実施)

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	法人の教育目標である所の遊びの中・生活の中での言語 や幼児教育の特性である遊びながら学ぶことが保護者の中での理解や周知が出来ておらず詰込みのように認識している方が一定数いるようだ。啓蒙や周知不足であると思われる。職員の働きやすさを目指すにはさらに人員の充実が必要ではあるが、社会的に難しい面は否めない。公的な援助を必要とするが公も苦慮している部分であることには違いない

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
遊びや生活の中での学びを周知する	園内研修などで子どもの成長や発達の瞬間を共有する。それらの発表を行い当法人の教育の在り方や良さを保護者、周囲の方に啓蒙する
職員間のコミュニケーションの円滑化	チームズを使い機械的に連絡できることを極力機械で行い、十分に実際コミュニケーションを取る時間の作成を試みる。

7. 学校関係者の意見

(職員) 優 良 可	(学園理事会) 優 良 可
(学園評議委員会) 優 良 可	(保護者代表) 優 良 可